

米国ケーブル産業の最新動向調査団報告書

目次

はじめに ~調査団の目的~	P	2
1. 総括	P	4
2. NCTA 会長 カイル・マクスラロー冒頭挨拶	P	11
3. NCTA 大会委員長 スティーブ・バーク挨拶 (Chief Operating Officer, Comcast Corp.)	P	14
4. NCTA 展示会 概要	P	17
5. NCTA 展示 ハード関係 デモ	P	21
6. NCTA 展示 Open TV 社 デモ	P	31
7. NCTA 展示 Cisco 社 デモ	P	34
8. NCTA 展示 Intellon 社 (PLC) デモ	P	37
9. NCTA 幹部とのミーティング	P	39
10. サンフランシスコ CIO(Chief Information Office)との ミーティング	P	43
11. Cox Cable Las Vegas	P	47
12. 参考資料		
資料1.	P	
資料2. 日程	P	56
資料3. 略語対応表	P	57



1 . 総 括

団長 加藤利雄

アメリカのケーブル業界はデジタル衛星放送（DBS）のサービス開始以来、これに顧客を奪われ加入者数が減少するという事態を招いていたが、HFC化、デジタル化、高速IPサービス、電話サービス、VOD等の積極的な設備投資とサービス提供により歯止めがかかり、2004年には加入者数が増勢に転じている。

また、これらの新しいサービスが一加入者当りの売上単価を押し上げ業界全体の収入は2004年に576億ドルに達している。VODに必要な番組調達、著作権処理に関するコンテンツ事業者との折衝やHitSの共同運営を行うなどMSOは勿論のこと独立系の事業者も結束して多くの加入者をバックにした効率的かつ優位な業務運営が見られた。

2005年のNCTA(National Cable & Telecommunications Association)展示会の出展者、有料入場者ともに前年を上回りケーブル業界は好況を継続していると伺えた。NCTA大会、展示会、企業訪問等通じて得られたアメリカケーブル業界の最近の概要については下記のとおりであるが詳細は本文の個別項目を参照されたい。

1) 概況

1996年から2004年までの9年間に約950億ドルの設備投資を行いHFC・広帯域とデジタル・システムにアップグレードし、映像chの増加(約100ch)、高速IP、電話、VOD等のサービス強化策を推進してきた。この結果ホームパスで11,300万世帯が550MHz以上、このうち9,900万世帯が750MHz以上の広帯域の伝送路となっている。

高速IPの加入者は1,940万世帯になり全米のシェアは60%程度である。デジタルの加入者は2,430万世帯となり最近HDTVの利用者がかなり増加してきている。

2) DBSとの競合

DBS(Direct Broadcast Satellite)はケーブルの最大の競合相手であり最近FCCもそれを認めてくれるようになった。全米50州をテリトリーとしており専門のスポーツ

(抜粋)

全57頁 (カラー写真添付PDF版)

